

2018年度 所員の研究・社会的活動報告

Research Reports 2018

(2018年4月1日～2019年3月31日)

氏名・専門領域	赤畑 淳 ●精神保健福祉論, ソーシャルワーク実践論
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 赤畑淳・大塚淳子 (2018) 「精神科病院新人ソーシャルワーカー育成のための個別スーパービジョン」 福山和女・渡部律子・小原真知子・浅野正嗣・佐原まち子編著『保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョンー支援の質を高める手法の理論と実際』ミネルヴァ書房. 2) 赤畑淳 (2019) 「生活保護における相談援助活動」伊藤秀一編『低所得者に対する支援と生活保護制度 [第5版]』弘文堂.
論文	赤畑淳 (2018) 「精神科臨床における精神保健福祉士の業務と役割」『精神神経学雑誌』120 (7), pp.609-615.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2018) 『精神保健福祉士国家試験模擬問題集2019 (専門科目)』中央法規出版 (編集委員). 2) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会編『第17回～第19回精神保健福祉士国家試験問題 [専門科目] 解答・解説集』へるす出版 (「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」分担担当). 3) 赤畑淳 (2018) 「精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践～私の研究活動・社会的活動・教育活動～」『立教大学コミュニティ福祉学会「まなびあい」』第11号, pp.127-133. 4) 赤畑淳 (2019) 「現場実習における精神保健福祉士の業務理解～『精神保健福祉士業務指針』の活用～」立教大学コミュニティ福祉学部紀要 (第21号), pp.85-98. 5) 平成30年度障害者総合福祉推進事業 [厚生労働省] (2019) 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築及び地域共生社会の実現に向けた精神保健福祉士の役割の明確化と養成・人材育成の在り方等に関する調査報告書」(第3部 質的調査「3. 実習指導者を対象としたグループインタビュー」「4. 10年以上の現場実践の経験を有する精神保健福祉士を対象としたグループインタビュー」分担担当)
学会発表	赤畑淳, 岩本操, 浅沼充志, 岡本亮子, 栗原活雄, 坂入竜治, 鈴木あおい, 古市尚志, 渡辺由美子, 古屋龍太 (2018) 「実習指導における『精神保健福祉士業務指針』の活用—精神保健福祉士の業務の学び方と伝え方」第17回日本精神保健福祉士学会学術集会, 長崎, 9月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会: 「精神保健福祉士業務指針」委員会副委員長 2) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会: 精神保健福祉士養成教育検討委員会委員 3) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会: 学会誌投稿論文等査読小委員会委員 4) 特定非営利活動法人あんずの家 (就労継続支援事業B型) 副理事長 5) 平成30年度障害者総合福祉推進事業 (厚生労働省) 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築及び地域共生社会の実現に向けた精神保健福祉士の役割の明確化と養成・人材育成の在り方等に関する調査」作業部会構成員

氏名・専門領域	飯村 史恵 ●権利擁護論, 福祉マネジメント論
論文	飯村史恵 (2018)「地域福祉計画における参加論再考—しょうがい当事者の『声』に焦点を当てて」『神奈川法学』第51巻第1号, pp.123-156, 神奈川大学法学会.
資料・研究ノート等	飯村史恵 (2018)「社会福祉制度における利用者の位置づけに関する一考察：生活困窮者自立支援制度に焦点を当てて」『コミュニティ福祉研究所紀要』第6号, pp.33-49, 立教大学.
学会発表	飯村史恵 (2018)「当事者主体から考える成年後見制度の課題」日本地域福祉学会, 焼津市, 6月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 練馬区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定評価・推進委員, 権利擁護センター運営委員会副委員長, 法人後見のあり方検討委員会委員 2) 文京区社会福祉協議会地域福祉計画推進委員会委員 3) 新宿区社会福祉協議会第三者委員, 情報公開・個人情報保護審査会委員 4) 西東京市社会福祉協議会発展強化検討委員会委員 5) 埼玉県地域福祉推進委員会委員長 6) 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画推進委員会副委員長 7) 志木市成年後見制度利用促進審議会副会長 8) 日本福祉介護情報学会理事 9) 救護施設あかつきオンブズマン 10) 社会福祉法人共働学舎第三者委員, 評議員選任・解任委員会委員 11) 認定社会福祉士認証・認定機構研修認定審査員 (2018年9月8日まで) 12) 特定非営利活動法人自律支援センターさぼーと理事 13) 特定非営利活動法人福祉の資料と情報理事/代表理事 14) 社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会評議員 15) 科研費研究 (基盤C)「意思決定支援を基盤とする福祉契約の研究～地域における新たな権利擁護システムの構築」研究代表者

氏名・専門領域	石渡 貴之 ●環境生理学, 脳神経科学, 発育発達
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 佐藤美穂, 松長大祐, 東郷史治, 石渡貴之, 交代勤務モデルラットの生理指標, 情動行動, 脳内神経伝達物質の比較, 第172回日本体力医学会関東地方会, 2019年3月, 東京理科大学. 2) 石渡貴之, 環境ストレスが生理指標, 脳内神経伝達物質, 情動行動に及ぼす影響 (シンポジウム9: 脳を守る至適運動・環境条件の探索), シンポジスト, 第73回日本体力医学会, 福井, 2018年9月 3) 石渡貴之, 金田雄太, 川田輝, 安松幹展, 幼若期における社会的隔離がラットの生理指標, 脳内神経伝達物質, 情動行動に及ぼす影響, 第73回日本体力医学会, 福井, 2018年9月 4) 中川晃, 松長大祐, 石渡貴之, 暑熱順化に伴う新奇環境下での情動行動の変化, 第73回日本体力医学会, 福井, 2018年9月 5) 松長大祐, 中川晃, 石渡貴之, 自発運動と強制運動が生理指標, 情動行動, 脳内神経伝達物質に与える影響の比較, 第73回日本体力医学会, 福井, 2018年9月 6) Takayuki Ishiwata, Yuta Kaneda, Akira Kawata, Mikinobu Yasumatsu, Comparison of physiological indices, emotional behaviors, and monoaminergic neurotransmitters in rat brains in isolation or group-rearing environments. FENS 2018, 2018年7月, Berlin, Germany. 7) Daisuke Matsunaga, Hikaru Nakagawa, Akira Kawata, Takayuki Ishiwata, Forced and voluntary exercise affect brain monoaminergic neurotransmitters and behavior differently in rats. FENS 2018, 2018年7月, Berlin, Germany.

学内・学外における社会的活動等	<p>【社会的活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本体力医学会 評議員 2) 日本生理学会 評議員 3) 公益社団法人 全国大学体育連合 研修部 <p>【研究活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文部科学省科学研究費 基盤研究C 研究代表者「自発運動が社会的隔離ストレス下の生理指標、脳内神経伝達物質、情動行動に及ぼす影響」(2017-2019) 2) 文部科学省科学研究費 基盤研究B 分担研究者(研究代表者:広島大学大学院 長谷川博)「暑熱環境下における運動能力低下に関する中枢性作用機序の解明と熱中症予防対策」(2017-2019) 3) 文部科学省科学研究費 基盤研究B 分担研究者(研究代表者:東京大学大学院 東郷史治)「交代制勤務による内的脱同調と心身の変調の因果性及びその神経行動学的基盤の解明」(2018-2020)
-----------------	--

氏名・専門領域	大石 和男 ●健康心理学
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) Bannai, K., Imanishi, T., & Oishi, K. (2018) Characteristics of psychophysiological responses during amateur and professional piano performances: focus on the presence and absence of an audience. <i>International Journal of Music and Performing Arts</i>, 6 (1) , pp.33-37. (査読有) 2) Kase, T., Ueno, Y., Shimamoto, K., & Oishi, K. (2018) . Causal relationships between sense of coherence and life skills: Examining the short-term longitudinal data of Japanese youths. <i>Mental Health & Prevention</i>, p.13, pp.14-20. (査読有) 3) Kase, T., Ueno, Oishi, K. (2018) The overlap of sense of coherence and the Big Five personality traits : A confirmatory study. <i>Health Psychology Open</i>, 5, 1-4. https://journals.sagepub.com (査読有) 4) 木村駿介・嘉瀬貴祥・大石和男 (2018) 共食の質尺度の作成および精神的健康との関連. <i>日本家政学会誌</i>, 69 (6) , pp.439-447. (査読有) 5) 木村駿介・岸笙子・小松陽香・大石和男 (2019) タッチラグビー選手の競技力向上を目指した心理サポートの基礎的研究: 競技レベル, 劣等感および首尾一貫感覚SOC に注目して. <i>Football Science</i>, p.16, pp.27-39. (査読有)
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Yano, K., Endo, S., Bannai, K., and Oishi, K. (2018) Do periodic physical exercises improve the psychological moods for Highly Sensitive Persons? <i>American Psychiatric Association 2018 Annual Meeting</i>, P5-106, New York City, United States of America (May 7th, 2018) . 2) 矢野康介・木村駿介・大石和男 (2018) 感覚処理感受性の高低によってパーソナリティの特徴は異なるかー Personality Prototypesによる分類を用いてー. <i>日本パーソナリティ心理学会第27回大会</i>, (2018年8月26日, 於 大阪) 3) 矢野康介・木村駿介・大石和男 (2018) Highly Sensitive Personに一般的な抑うつ対処は有効か. <i>日本心理学会第82回大会</i>, (2018年9月25日, 於 仙台) 4) 嘉瀬貴祥・上野雄己・大石和男 (2018) 首尾一貫感覚のライフキャリア・レジリエンスに対する関連の検討. <i>日本健康心理学会第31回大会</i>, (2018年6月23日, 於京都橘大学, 京都) 5) Yano, K., Kase, T., and Oishi, K. (2019) Sense of Coherence moderates the relationship between sensory-processing sensitivity and depressive tendency. <i>Society of Personality and Social Psychology 2019 annual convention</i>, Portland, United States of America (February 8th, 2019)

学会発表	<p>6) Yano, K., Kimura, S., and Oishi, K. (2019) Does sensory-processing sensitivity moderate the relationship between social support and depressive tendency? Asian-Pacific Conference on Education, Social studies, and Psychology 2019, Bangkok, Thailand (March 20th, 2019) .</p> <p>7) Yano, K., Kimura, S., and Oishi, K. (2019) Exploratory study on characteristics of "Highly Sensitive Person" among Japanese university students. Asian Conference on Psychology and Behavioral Sciences 2019, Tokyo, Japan (March 21st, 2019) .</p> <p>8) Kimura, S., Yano, K. and Oishi, K. (2019) Do highly sensitive people experience beneficial psychological effects from shared mealtime? Asian-Pacific Conference on Education, Social studies, and Psychology 2019, Bangkok, Thailand (March 20th, 2019) .</p>
------	---

氏名・専門領域	岡 桃子 ●子ども家庭福祉, 子育て支援におけるコミュニティ・アプローチ, 児童虐待における予防的介入
著書	岡桃子 (2018) 「母子保健サービス」川並利治・和田一郎・鈴木勲編『保育者養成のための子ども家庭福祉』大学図書出版.
資料・研究ノート等	富田文子・岡桃子 (2018) 「まなびあい学会での発表に向けた学生指導を振り返るー 2017年度社会福祉援助技術現場実習の学びからー」『まなびあい』第11号, pp.189-195, 立教大学コミュニティ福祉学部.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 立教女学院短期大学非常勤講師「児童福祉実践論」 2) 日本福祉大学非常勤講師「相談援助演習1・2」 3) 駿河台大学大学院非常勤講師「福祉心理学特論」 4) NPO法人IFCA SA (社会的養護経験者サポーターアドルト) 5) NPO法人湘南遊映坐理事, 事務局長, 復興支援事業担当 (熊本県南阿蘇村応急仮設住宅, 立野学童保育所等)

氏名・専門領域	河東 仁 ●宗教学, 文化政策学
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 山田親義, 河東仁 (2019.3掲載決定) 「社寺地等内外における法定外公物の活用へ向けて」『宗教と社会』第25号, pp.97-110 「宗教と社会」学会 (査読つき) . 2) 河東仁 (2018) 「『意識のゼロ・ポイント』とユング心理学」『宗教研究』第92号別冊 (学術大会紀要号), pp.42-43 日本宗教学会 (査読なし) . 3) 山田親義・河東仁 (2018) 「自治体における国有財産譲与図面の取り扱い」『法政大学地理学会』第50号, pp.29-40, 法政大学地理学会 (査読つき)
資料・研究ノート等	科研費研究費による「関係人口」増大を企図した観光パンフレット『宮城県南三陸町オデッセイア』の編集・印刷製本および当該町観光協会への寄贈.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 河東仁 「『意識のゼロ・ポイント』とユング心理学」第77回日本宗教学会大会, 京都, 9月. 2) 河東仁 「震災復興と伝統的民俗芸能～宮城県南三陸町を中心に～」国際日本文化研究センター共同研究荒木班2018年度第2回共同研究会, 京都, 7月.
学内・学外における社会的活動等	新座市障がい者就労支援センター運営委員会議長

氏名・専門領域	木下 武徳 ●社会福祉学
著書	1) 木下武徳 (2018)「第5章 ケースワーカーとはどんな人?福祉事務所はどんな職場?生活保護の実施体制」pp.59-71,「13章 生活保護の権利は私たちと無関係なのか?生活保護の権利と不服申立制度」pp.183-197,「14章 生活困窮者自立支援制度は貧困対策をどう変えるか?」pp.199-216 岩永理恵・卯月由佳・木下武徳著『生活保護と貧困対策』有斐閣. 2) 木下武徳 (2019)「第11章 アメリカの社会保障」芝田英昭・鶴田禎人・村田隆史編『新版 基礎から学ぶ社会保障』,pp.197-211,自治体研究社.
資料・研究ノート等	1) 木下武徳 (2018)「新刊紹介 岩田正美『貧困の戦後史』」『人間福祉研究』, pp.155-156, 関西学院大学人間福祉学部. 2) 奥野英子・木下武徳 (2019)「障害者福祉の基礎知識」『第30回手話通訳技能認定試験(手話通訳士試験)模範解答集』木下担当分, pp.12-15, 20-29. 日本手話通訳士協会
学内・学外における社会的活動等	1) 小澤薫・木下武徳 (2018)「<福祉事務所調査>『他の福祉事務所はどうしている? ケースワーカーの仕事~アンケート調査からみた CWの業務、課題、これから~』」第51回全国公的扶助研究全国セミナー, 大正大学 2) 木下武徳 (2019)「福祉事務所をより良くするために~調査結果からみえてきた課題」平成30年度生活保護行政主管課長研修, 東京都社会福祉保健医療研修センター

氏名・専門領域	空閑 厚樹 ●生命倫理学, 持続可能な福祉コミュニティ
論文	1) KUGA, A. (2018) "Awareness of Interdependence through the Gaia Education Program as the Sustainability Movement's Potential Contribution to Bioethics", Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine, No. 12, pp.35-44. 2) 佐藤壮広、空閑厚樹 (2019)「大学教育におけるファシリテーション」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』21号, pp.1-16, 立教大学.
資料・研究ノート等	1) 空閑厚樹 (2018)「「孤児, 寡婦, 寄留者」から考えるコミュニティ福祉」『まなびあい』11号, pp.150-159, 立教大学. 2) 空閑厚樹 (2018)「「いのち」への配慮」とコミュニティ (15)」『シンビオーシス』86号, pp.8-10, NGO 地に平和. 3) 空閑厚樹 (2019)「「いのち」への配慮」とコミュニティ (16)」『シンビオーシス』88号, pp.10-11, NGO 地に平和.
学会発表	KUGA, A. (2018) "Bridging bioethics and sustainability via localisation", 14th World Congress of Bioethics 2018, Bengaluru, 12月.

氏名・専門領域	後藤 広史 ●貧困・ホームレス問題/社会的排除
著書	後藤広史 (2018)「『経営』の特徴と目的 —— 社会的な問題の解決/当事者参画型/中間支援組織/市場の活用」小松 理佐子編『よくわかる社会福祉の「経営」』, ミネルヴァ書房 (教科書).
資料・研究ノート等	後藤広史 (2019)「文献紹介: 黒木保博監修「世界の子ども」の貧困対策と福祉関連QOL — 日本, 韓国, イギリス, アメリカ, ドイツ」『社会福祉学』59 (4), pp.108-109, 社会福祉学会.

学会発表	Hiroshi GOTO (2019) 「The Unique Characteristics and Structure of the San'ya Neighborhood: An Analysis from Perspective of the Livelihood Protection System」Refuge Neighborhoods: Service Hubs and Homelessness in the U.S. and Japan, U.S.A (Florida), 3月. 後藤広史 (2018) 「ホームレス問題・山谷地域の変容と地域医療 —山友会クリニックの実践から」第61回日本病院・地域精神医学会 シンポジウム: 山谷・寿町下ヤ街の地域医療, 東京, 12月. 後藤広史 (2018) 「生活困窮者支援とソーシャルワーク: 就労自立支援サービスを中心にして」同志社大学社会福祉教育・研究支援センター 2018年度 連続公開セミナー 「貧困問題と就労自立支援サービス再考」, 京都 (同志社大学), 7月.
学内・学外における社会的活動等	後藤広史 (2018) 「生活困窮者を地域で支えるために」あいづわかまつ地域福祉フォーラム」, 福島, 10月 【講演】

氏名・専門領域	小長井 賀與 ●司法福祉, 刑事政策, 犯罪社会学
著書	小長井賀與 (2019) 「生活環境調整と就労支援」, 「犯罪被害者等支援活動」松本勝編著, 成文堂
論文	1) 小長井賀與 (2019) 「西欧の移民政策とその狭間で過激化する若者たち」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』21号, pp.68-79, 立教大学. 2) 小長井賀與 (2018) 「オランダの再犯防止施策 — 多機関連携による『入口支援』と『出口支援』の仕組み」『罪と罰』221号, pp.68-79, 日本刑事政策研究会. 3) 小長井賀與 (2018) 「多民族国家における平和の構築 — 過激化する若者を抱える西欧の苦悩と実践 — 」『犯罪社会学研究』43号, pp.144-155, 日本犯罪社会学会. 4) 小長井賀與 (2018) 「罪を犯した人の地域社会への再統合 — 司法と福祉の連携の課題と展望 — 」『社会福祉学研究』131号, pp.22-29, 鉄道弘済会.
学会発表	1) 小長井賀與 (2019) 「高齢犯罪者の更生と社会統合」東京社会福祉士会2018年度司法福祉公開講座『高齢化と犯罪』のパネリスト, 早稲田大学 (東京), 3月. 2) 小長井賀與 (2018) 「保護観察対象者の更生と社会統合 再考」日本更生保護学会第7回大会・大会企画シンポジウムの企画・調整・司会, 立教大学 (東京), 12月. 3) 小長井賀與 「移民の社会統合 — 西欧の経験から学ぶ多文化共生社会構築の課題と可能性」の企画・調整・司会, 立教大学コミュニティ福祉学部主催公開研究会, 立教大学 (東京), 11月. 4) 小長井賀與 「更生保護における犯罪者処遇の現状と課題」日本犯罪社会学会第45回大会・大会企画シンポジウム『犯罪者処遇はどう変わるのか?』の指定討論者, 西南学院大学 (福岡) 10月.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本更生保護学会常務理事 2) 日本犯罪社会学会常任理事 3) 全国更生保護法人連盟評議員 4) 更生保護振興財団評議員 5) 保護司研修月刊誌「更生保護」編集委員 6) 日本更生保護学会誌「更生保護学研究」編集委員 7) 日本司法福祉学会誌「司法福祉学研究」査読委員 8) 日本犯罪社会学会誌「犯罪社会学研究」編集幹事 9) 早稲田大学社会安全政策研究所招聘研究員 10) 法務省平成30年度安全安心まちづくり関係功労者選考委員

氏名・専門領域	権 安理 ●公共哲学, 社会哲学, 公共空間論
資料・研究ノート等	1) 権安理 (2018)「自著を語る」『経済社会学会ニューズレター』64号, pp.5-6, 経済社会学会. 2) 権安理 (2018)「自著を語る:『公共的なるもの—アーレントと戦後日本』『ロゴス通信』第7号, p.5, ログスの会事務局. (https://www.dropbox.com/s/xwctoprzlsafz26/Logos7.pdf?dl=0)
学内・学外における社会的活動等	1) 復興実学共働学習会講師「『公共的なるもの』を共働実学する」(2018年5月18日) 2) 山形県高島町・立教大学交流連続講座講師「空き家の可能性を考える—『空き』の可能性」(2019年2月19日) 3) さいたま市立浦和南高等学校学校運営準備委員会委員

氏名・専門領域	斉藤 知洋 ●計量社会学, 社会階層論, 家族社会学
論文	【査読有】 1) 斉藤知洋 (2018)「ひとり親世帯の所得格差と社会階層」『家族社会学研究』第30号1巻, pp.44-56. 【査読無】 2) 斉藤知洋 (2018)「家族研究におけるダイアド・データの応用可能性と課題」東京大学社会科学附属社会調査・データアーカイブ研究センター編『2017年度参加者公募型二次分析研究会 夫婦データを用いた、家計・就業・子育てに関する二次分析』第65号, pp.283-304.
資料・研究ノート等	【研究ノート】 斉藤知洋 (2018)「家族とライフコースの不平等を考える」コミュニティ福祉学会『まなびあい』第11号, pp.134-38.
学会発表	1) 斉藤知洋 (2018)「家族変動からみる社会移動研究の再検討——離別ひとり親世帯の形成に着目して」第65回東北社会学会大会(於:岩手県民情報交流センター)7月. 2) 斉藤知洋 (2018)「社会階層からみる母子世帯の就労と経済的自立」第28回日本家族社会学大会(於:中央大学多摩キャンパス)9月. 3) 斉藤知洋 (2019)「低所得・貧困世帯出身者の進路意識と大学進学」2018年度二次分析研究会課題公募型研究成果報告会(東京大学社会科学研究所附属社会調査データアーカイブ研究センター)2019年3月.
学内・学外における社会的活動等	【研究活動】 1) 科学研究費助成事業(研究活動スタート支援)「ひとり親世帯の階層状況と就労・世代間再生産に関する社会学的研究」研究代表者(課題番号:18H05721) 【学外における社会的活動等】 2) 「統計データから考える日本の福祉問題」千葉県立八千代高等学校, 2018年7月18日(講師)

氏名・専門領域	阪口 毅 ●都市社会学, 地域社会学, コミュニティ論
著書	1) 阪口毅 (2019)「立川プロジェクトの始動——新たな『契約』の行方」新原道信編著『“臨場・臨床の智”の工房——国境島嶼と都市公営団地のコミュニティ研究』中央大学出版部. 2) 阪口毅・大谷晃・鈴木将平 (2019)「いくつもの『もうひとつの立川プロジェクト』」新原道信編著, 同上書.

著書	3) 阪口毅 (2019)「移動性と領域性のジレンマを超えて —— コミュニティ研究における時間・場所・身体」新原道信・宮野勝・鳴子博子編著『地球社会の複合的諸問題への応答の試み』中央大学出版部, 2019年11月発行予定.
学会発表	阪口毅 (2018)「移動性と領域性のジレンマを超えて —— コミュニティ研究における時間・場所・身体」, 第27回中央大学学術シンポジウム: 地球社会の複合的諸問題への応答 (Responses to the Multiple Problems in the Planetary Society), 東京, 12月.
学内・学外における社会的活動等	1) 新原道信, 橋本久行, 佐々木史子, 阪口毅, 大谷晃, 前川財団第9回未来教育シンポジウム「“社会の子どもたち”が巣立つ“共創・共成”コミュニティ」東京, 2019年2月 2) 共住懇 (2019)『合本OKUBO』編集, 2019年7月 3) 科学研究費助成事業 (若手研究)「コミュニティの移動性と領域性に関する歴史社会学的研究: 立川・砂川を事例として」研究代表者 (課題番号: 19K13921)

氏名・専門領域	三本松 政之 ●福祉社会学
論文	三本松政之, 柳姫希, 金信慧 (2018)「韓国の社会的バルネラブルクラスとコミュニティ・エンパワメントに関する研究」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第6号, pp.1-19.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本社会福祉学会学会賞審査委員 2) 葛飾区社会福祉協議会 介護支援サポーター制度運営協議会委員長

氏名・専門領域	芝田 英昭 ●社会学, 社会保障論
著書	芝田英昭他編著 (2018)『新版 基礎から学ぶ社会保障』自治体研究社.
論文	1) 芝田英昭 (2018)「ニュージーランドのホームレス対策『ハウジング・ファースト』アプローチの成果」『経済』No.278, pp.120-135 新日本出版社. 2) 芝田英昭 (2018)「加速する在宅への流れと『地域共生社会』が目指すもの」『月刊保団連』No. 1273, pp. 4-10 全国保険医団体連合会. 3) 芝田英昭 (2018)「人間の尊厳とは何か」『コミュニティ福祉研究所紀要』第6号, pp.21-32 立教大学. 4) 芝田英昭 (2018)「『我が事・丸ごと』地域共生社会のねらいと地域・自治体の課題 (上)」『とちぎの地域と自治』第184号, pp. 2-12 とちぎ地域・自治体研究所. 5) 芝田英昭 (2018)「『我が事・丸ごと』地域共生社会のねらいと地域・自治体の課題 (下)」『とちぎの地域と自治』第184号, pp.10-15 とちぎ地域・自治体研究所. 6) 芝田英昭 (2018)「基礎から学ぶ社会保障 … その概念と役割」『隔月刊社会保障』No. 480, pp. 26-29 中央社会保障推進協議会.
資料・研究ノート等	1) 芝田英昭 (2018)「地域共生社会の本質と憲法25上の理念放棄」『隔月刊社会保障』No. 482, pp. 22-23 中央社会保障推進協議会. 2) 芝田英昭 (2018)「全世代型社会保障への転換の真の狙いは、消費税増税にある」『みんなのねがい』No.635, pp.2-3 全国障害者問題研究会. 3) 芝田英昭 (2018)「社会保障の綻びと再生 (1)」『大阪保険医新聞』第1950号, p.6 大阪府保険医協会.

資料・研究ノート等	<p>4) 芝田英昭(2018)「社会保障の綻びと再生(2)」『大阪保険医新聞』第1953号, p.6 大阪府保険医協会.</p> <p>5) 芝田英昭(2018)「社会保障の綻びと再生(3)」『大阪保険医新聞』第1956号, p.6 大阪府保険医協会.</p> <p>6) 芝田英昭(2018)「社会保障の綻びと再生(4)」『大阪保険医新聞』第1958号, p.6 大阪府保険医協会.7) 芝田英昭(2018)「社会保障の綻びと再生(5)」『大阪保険医新聞』第1960号, p.6 大阪府保険医協会.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>【学内】</p> <p>1) 立教大学体育会弓道部 部長</p> <p>【学外】</p> <p>1) 日本医療福祉政策学会 幹事</p> <p>2) 全国老人問題研究会 運営委員</p> <p>3) 自治体問題研究所 理事</p> <p>4) 埼玉県社会保障推進協議会 副会長</p> <p>5) 医療生協さいたま社会貢献委員会 副委員長</p> <p>6) 日本社会保障政策研究会 主宰</p>

氏名・専門領域	杉浦 克己 ●スポーツ栄養学
著書	杉浦克己(2019) みんなのスポーツ栄養.『イラストでみる最新スポーツルール'19』, pp.16-17, 大修館書店.
論文	<p>1) 杉浦克己(2019) 筋トレとアンチエイジング. JATI EXPRESS 69号, pp.12-14. 単著</p> <p>2) 杉浦克己(2018) インフルエンザ対策と栄養. JATI EXPRESS 68号, pp.12-14. 単著</p> <p>3) 杉浦克己(2018) 成長期のスポーツと栄養(その3). JATI EXPRESS 67号, pp.12-14. 単著</p> <p>4) 杉浦克己(2018) 成長期のスポーツと栄養(その2). JATI EXPRESS 66号, pp.14-16. 単著</p> <p>5) 杉浦克己(2018) 成長期のスポーツと栄養(その1). JATI EXPRESS 65号, pp.14-15. 単著</p> <p>6) 杉浦克己(2018) 高齢者のスポーツと栄養. JATI EXPRESS 64号, pp.8-9. 単著</p>
学会発表	<p>1) 杉浦克己(2018)「スポーツ食品・サプリメントの現状と未来」シンポジウム5 スポーツ栄養の新展開. 第72回日本栄養・食糧学会大会, 岡山, 5月. 発表および座長.</p> <p>2) Katsumi SUGIURA (2018) "Survey on fluid intake history of college students majoring in sport and wellness." European College of Sport Science, Dublin, 7月.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>【学内】</p> <p>1) 立教大学コミュニティ福祉研究所 所長</p> <p>2) 立教大学ウエルネス研究所 所員</p> <p>3) 立教大学体育会拳法部 部長</p> <p>【学外】</p> <p>1) 株式会社明治 顧問</p> <p>2) 埼玉県新座市健康づくり推進協議会 委員</p> <p>3) 埼玉県新座市民総合大学健康増進学部健康づくり学科 コーディネーター</p> <p>4) (公財) 日本バレーボール協会科学研究委員会 栄養サポート班 班長</p> <p>5) 日本体力医学会 評議員</p> <p>6) NPO法人日本トレーニング指導者協会(JATI) 参与</p> <p>7) (公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟 指導者養成講習会 講師</p> <p>8) (公財) 体力づくり指導協会 高齢者体力づくり支援士養成講習会 講師</p>

氏名・専門領域	鈴木 弥生 (Yayoi Suzuki) ●社会開発 (発展) Social Development
論文	SUZUKI, Yayoi RITCHIE, Zane (2019), <i>An Analysis of a Course Taught in English on Local People's Perspectives in International Culture and Social Problems in the University-wide Liberal Arts Courses</i> , <i>Bulletin of the College of Community and Human Services</i> , Rikkyo (St. Paul's) University, No.21, pp.17-46.
資料・研究ノート等	鈴木弥生「ニューヨーク市におけるバングラデシュ出身の移民労働者」(2018)『まなびあい』立教大学コミュニティ福祉研究所、第11号、160-179頁。
学内・学外における社会的活動等	1) 「グローバルゼーションと国際労働移動：バングラデシュ女性労働者の実態調査」(研究代表者：鈴木弥生、科学研究費助成事業、基盤研究C、2014-17年度)、研究成果報告書(様式C-19)。 2) 「ニューヨーク市におけるバングラデシュ出身の移民：移民二世代の生活実態調査」(研究代表者：鈴木弥生、科学研究費助成事業、基盤研究C、2018-21年度予定)に基づく現地調査。

氏名・専門領域	田中 悠美子 ●高齢者福祉、認知症ケア
論文	「若年性認知症者の総合支援システムにおける現状と課題 — 40代で診断を受けた若年性認知症者の生活課題に関する一考察 —」平成30年10月、公益財団法人鉄道弘済会「社会福祉研究」第133号、pp.9-17.
学内・学外における社会的活動等	1) 東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と精神保健研究チーム研究員 2) 埼玉県市町村総合相談支援体制構築推進部会委員 3) 社会福祉法人マザアス 若年性認知症の就労推進プロジェクトチーム委員

氏名・専門領域	富田 文子 ●職業リハビリテーション、障害者福祉
著書	富田文子 (2018)「障害福祉計画における就労系サービスの目標から展望する」『発達障害白書2019年版』日本発達障害連盟著、pp.134-135、明石書店。
資料・研究ノート等	1) 富田文子 (2018)「就労支援サービス第145問・第146問」『2019社会福祉士過去問題解説集』、pp.186-187、中央法規出版。 2) 富田文子 (2018)「平成30年度社会福祉士社会福祉士全国统一模試試験 就労支援サービス第143問・第144問」『一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟』主催、pp.39-40、中央法規出版。 3) 富田文子 (2018)「書評 新版 障害者の経済学」『職業リハビリテーション』第32号1号、p.70、協文社。 4) 富田文子・岡桃子 (2018)「まなびあい学会での発表に向けた学生指導を振り返る— 2017年度社会福祉援助技術現場実習の学びから —」『立教大学コミュニティ福祉学部まなびあい』第11号、pp.189-195、立教大学。 5) 富田文子 (2019)「相談支援事業所等の支援者のための障害者就労支援事業所の選択のツール開発 — 「大田区ジョブブック」の作成の実践から —」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第21号、pp.99-113、立教大学。
学会発表	富田文子 (2018)「相談支援機関等における就労支援事業所選定ツールの開発に関する研究—東京都大田区の「支援者向け就労支援施設ガイドブック」の作成プロセスから考える —」日本職業リハビリテーション学会第46回大会、北海道、8月。
学内・学外における社会的活動等	【社会活動】 1) 大田区自立支援協議会 就労支援部会専門委員 2) 大田区就労支援協力員 3) 大田区就労移行支援事業所連絡会委員 4) さいたま障害者就業サポート研究会事務局員

<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<p>5) 平成30年度社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格支援委員 6) MCSハートフルA株式会社（就労継続支援A型）第三者委員 7) 障害年金法研究会 障害年金事例検討会拡大運営委員 8) 平成30年度埼玉県特別支援教育巡回支援員 9) 株式会社 LITALICO LITALICO ワークス エリアトレーナー養成講師 10) 2018年度立教大学コミュニティ福祉学会運営委員（大会実行委員） 11) 立教大学コミュニティ福祉学部20周年記念誌編集委員</p> <p>【講演】 平成30年度大田区自立支援協議会就労支援部会「大田区における 障がい者に対する就労支援の取り組み ― 福祉的就労の経過を踏まえて ―」（単独）、2019年2月5日。</p> <p>【研究活動】 1) 文部科学省科学研究費（基盤研究C）「重度障害者に対する社会支援に基づく多様な就労形態に関する研究」、研究委員会委員（代表研究者：埼玉県立大学 朝日雅也）、2015-2018年度。 2) 大田区役所・立教大学 共同研究契約締結（2017-2018年度）研究代表者</p>
------------------------	--

<p>氏名・専門領域</p>	<p>中村 大輔 ●スポーツ医学, 運動生理学</p>
<p>著書</p>	<p>中村大輔（2018）「第3章サッカーの運動生理学」財団法人日本サッカー協会スポーツ医学委員会編、『コーチとプレーヤーのためのサッカー医学テキスト』金原出版。</p>
<p>論文</p>	<p>1) 中村大輔, 田名辺陽子, 高橋英幸（2018）「日本人トップアスリートにおける暑熱対策に関するアンケート調査」Sports Science in Elite Athletes Support, 3, pp.39-51. 2) 中村真理子, 中村大輔, 大岩奈青, 早川直樹（2018）エリートサッカー選手における唾液中コルチゾールを用いたコンディション評価の可能性. Journal of High Performance Sport, in press.</p>
<p>学会発表</p>	<p>1) Nakamura, D., Nakamura, M., Hayakawa, N（2018）Changes in salivary cortisol levels and subjective condition during 2016 AFC U-23 Championship period, ECSS, Dublin/IRE, July. 2) Yasumatsu M., Tobita A., Nakamura D., Tanabe Y., Iwayama K., Ishibashi A., Nakamura M., Ishii Y., Takahashi H（2018）Effects of 3 matches in a week on football performance and dehydration level in hot environments, ECSS, Dublin/IRE, July 3) 中村大輔, 石橋彩, 中村真理子, 石井泰光, 岩山海渡, 高橋英幸, 安松幹展（2018）「1週間に3試合の試合日程における高炭水化物食摂取と大腿部筋グリコーゲン量の回復動向」日本フットボール学会 16th Congress, 12月, 千葉. 4) 安松幹展, 飛田晃典, 中村大輔, 岩山海渡, 石橋彩, 中村真理子, 石井泰光, 高橋英幸（2018）サッカーのゲームフィジカルパフォーマンスに及ぼす暑熱環境下での連戦の影響, 日本フットボール学会 16th Congress, 12月, 千葉.</p>
<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<p>1) 中村大輔（2018）JISS特別プロジェクトに関するプレゼンテーション：東京2020大会に向けて 暑さ対策（暑熱対策）平成30年度 JOC コーチ会議, 東京, 6月 2) 中村大輔（2018）「競技現場におけるアイススラリーの使用とその効果」JISS 暑熱セミナー, 東京, 7月 3) 第18回アジア競技大会（2018/ジャカルタ・パレンバン）サッカー日本代表医科学サポートスタッフ, 8月 4) AFC U-19選手権インドネシア（2018）サッカー日本代表医科学サポートスタッフ, 10月 5) ドバイカップU-23（2018）サッカー日本代表医科学サポートスタッフ, 11月</p>

氏名・専門領域	長倉 真寿美 ●高齢者福祉論, コミュニティケア論
論文	「地域居住におけるサービス付き高齢者向け住宅の可能性と課題 一日英の事例からの検討」(2019)『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第21号, pp.47-62立教大学.
学内・学外における社会的活動等	1) 豊島区介護保険事業計画推進会議委員 2) 豊島区都市計画審議会委員 3) 豊島区電気自動車 (EV) バス事業者審査委員 4) 江東区社会福祉法人地域協議会会長 5) 江東区地域福祉活動計画策定・推進委員会委員長 6) 江東区地域福祉活動計画策定・推進委員会作業部会長 7) 社会福祉士国家試験委員 8) 社会福祉法人至誠学舎立川評議員

氏名・専門領域	濁川 孝志 ●心身ウエルネス
著書	1) 『日本の約束～世界調和への羅針盤』 でのぼう出版 (2018) 2) 『スピリチュアリティ研究の到達点と展開』日本トランスパーソナル心理学 3) 精神医学会 編 コスモス・ライブラリー (2019) (第6章 星野道夫のスピリチュアリティ 担当) 4) 『星野道夫 永遠の祈り』 でのぼう出版 (2019)
論文	1) 『自然体験がスピリチュアリティ醸成に及ぼす影響』日本トランスパーソナル心理学/精神医学会17 (1), pp.68-83 (2018) 2) 『星野道夫と日本人の求める靈性』サムライ・平和 第13号, pp.49-56 (2019)
学会発表	1) Kiji, M., Kase, T., Nigorikawa, T. 2) Effects of star watching experiences on the sense of human's spirituality and on other psychological factors. 3) 23th European College of Sport Science, DataBase (http://www.ecss.de/ASP/EDSS/C23/23-0828.pdf) (2018) 4) 鹿熊勤, 奇二正彦, 濁川孝志『自然とスピリチュアリティの関係を考える』日本トランスパーソナル心理学/精神医学会 19回学術大会シンポジウム (2018)
学内・学外における社会的活動等	1) 映画『いきたひ』上映会 (立教大学) 2018年9月29日 2) シンポジウム『日本から世界調和へ』(立教大学) 2019年1月13日

氏名・専門領域	西田 恵子 ●地域福祉論
資料・研究ノート等	西田恵子 (2018)「インフォーマルケア」, 「孤立死」, 「災害ボランティア」, 「住民懇談会」, 「住民自治」, 「地域福祉活動計画」, 「地縁型組織」, 「地区社会福祉協議会」, 「コミュニティワーカー」社会福祉学習双書編集委員会編『社会福祉学習双書2019 学びを深める福祉キーワード集』全国社会福祉協議会.
学会発表	1) 西田恵子 (2018)「LARA に先行した CRALOG の運営に係る一側面 ～第2次世界大戦後混乱期のドイツに対する民間救援活動の実際～」日本社会福祉学会, 愛知, 10月. 2) 西田恵子 (2018)「ララ救援活動の組織化にみる使命の継続性 ～アメリカ・フレンズ奉仕団に着目して～」日本キリスト教社会福祉学会, 神奈川, 6月.

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)「ララ救援物資の形成・配分過程 ～関与機関・団体の多様性とその帰結～」研究代表者 (2018-2021年度) 2) 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)「養老院・養老施設の経営・運営と処遇(ケア)の質に関する研究」岡本多喜子研究代表者 研究分担者 (2016-2020年度) 3) 日本都市センター 「地域社会を運営するための人材確保と人づくりの在り方に関する研究会」委員 4) 東海村社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会委員長 5) 高島町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会委員長 6) 更生保護学会第7回大会シンポジウム 「地域福祉の視座 ― 地域包括ケア」 7) 全国社会福祉協議会 中央福祉学院 社会福祉主事講習「社会福祉概論」
-----------------	--

氏名・専門領域	沼澤 秀雄 ●運動方法学, コーチング論
資料・研究ノート等	沼澤秀雄 (2018)「ハードル」『指導者講習テキスト』公益財団法人日本陸上競技連盟普及育成委員会指導者育成部, pp36-43.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 沼澤秀雄, 小林敬和, 井筒紫乃, 森健一 (2018)「キッズアスレティックス×とうほくキャラバンの活動～東日本大震災被災地の小学校を対象にしたスポーツ活動による復興支援 ～第48回日本レジャー・レクリエーション学会大会, 東京, 12月 2) 宇佐美綾乃, 沼澤秀雄 (2018)「スポーツ吹矢における健康に対する効果と普及活動について」第48回日本レジャー・レクリエーション学会大会, 東京, 12月
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本レジャー・レクリエーション学会 副会長 2) 日本陸上競技連盟普及・育成委員会 指導者養成部長 3) 日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー 4) 日本キッズアスレティックス協会理事 5) 大学スポーツクライミング協会 副会長 6) 日本陸上競技連盟ジュニアコーチ, 公認コーチ, U13クリニック, U16クリニック, 指導者講習会講師 7) IAAF CECS Level1 講師 8) キッズアスレティックスインストラクター養成講習会講師 9) 日本サッカー協会指導者育成講習会A級 U12講師, リフレックス講習講師 10) 日本サッカー協会サッカーアカデミーランニングコーディネーションコーチ

氏名・専門領域	原田 晃樹 ●地方自治・行政学
論文	原田晃樹「持続可能な地域づくりの条件 ― コミュニティ事業組織・地域運営組織と小規模自治体の連携 ―」『にじ：協同組合経営研究誌』667号, 2019年, pp.19-27. 査読無
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 一般社団法人全国食支援活動協会編 (2019)『住民のやる気を支える支援の手引き』(厚生労働省平成30年度老人保健健康増進等事業「地域住民の社会参加活動等を基盤とした互助促進の手法に関する調査研究事業」(第1章2・3節・4節 ②③、第2章2節・3節 ①執筆担当)。 2) 一般社団法人全国食支援活動協会『平成30年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「地域住民の社会参加活動等を基盤とした互助促進の手法に関する調査研究事業報告書」(2019年3月)(分担執筆)。

<p>学会発表</p>	<p>1) Kohki HARADA, "Characteristics of Japanese Social Enterprises in Rural Areas: changing landscapes in Japanese rural communities", The Voluntary Sector and Volunteering Research Conference 2018 (National Council of Voluntary Organisations (NCVO), London, 7th, September, 2018).</p> <p>2) 原田晃樹「非営利組織の特性を生かした評価と契約」(2018年度第32回自治体学会青森大会／研究セッションE：産業廃棄物・非営利組織, 2018年8月25日青森市文化観光交流施設「ねぶたの家ワ・ラッセ」).</p>
<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<p>1) 立教大学サービスラーニングセンターセンター長</p> <p>2) コミュニティ福祉研究科前期課程主任</p> <p>3) 四日市市行政改革推進会議会長</p> <p>4) 新座市子ども子育て会議会長</p> <p>5) 豊島区南大塚保育園運営委員会委員</p> <p>6) 社会福祉法人ふきのとう評議委員</p> <p>7) 公益財団法人地方自治総合研究所「格差是正と地方自治研究会」委員</p> <p>8) 大日本印刷株式会社委託研究調査「地方自治体窓口申請手続きの情報化」受託</p> <p>9) 社会的企業研究会運営委員</p>

<p>氏名・専門領域</p>	<p>平野 方紹 ●社会福祉行財政, 公的扶助, 障害福祉政策</p>
<p>著書</p>	<p>1) 平野方紹 (2019)「福祉行財政の実施体制」 蟻塚昌克・関川芳孝編『社会福祉学習双書2019 社会福祉概論Ⅱ — 福祉行財政と福祉計画／福祉サービスの組織と経営 —』全国社会福祉協議会.</p> <p>2) 平野方紹 (2019)「生活保護行政における国と地方の関係」 神野直彦・山本隆・山本恵子 編著『貧困プログラム — 行財政計画の視点から —』関西学院大学出版会.</p>
<p>論文</p>	<p>平野方紹 (2019)「障がい者の働く権利と憲法・国連権利条約 — 障がい者雇用不正事件が障がい者から奪ったものは何か —」(単著)『住民と自治』通巻672号), pp.8-10, 自治体問題研究所.</p>
<p>資料・研究ノート等</p>	<p>1) 平野方紹 (2018)「報酬改定のポイント— 障害福祉はどこに向かうのか —」(単著)『WAM』第640号, p.11, 福祉医療機構.</p> <p>2) 平野方紹 (2018)「座談会 働くことの意義と支援を問う — 就労支援の商業化の中で —」(共著)『精神医療』第91号 [第4次], pp.12-40, 批評社.</p> <p>3) 平野方紹 (2018)「ニュースナビ：障害年金打ち切り問題を探る—なぜ「打ち切れ」、なにが問題なのか」(単著)『みんなのねがい』2018年10月号 No.629, pp.2-3, 全国障害者問題研究会.</p> <p>4) 平野方紹 (2018)「座談会 平成30年度障害福祉サービス等報酬改定を考える— 報酬改定の評価と今後の障害者支援施設の課題 —」(共著)『身障協』, pp.3-8, 全国身体障害者施設協議会.</p> <p>5)「Interview 成績評価に対応してゆく事業運営とは」(単著)『WAM』第648号, p.5, 福祉医療機構.</p> <p>6) 平野方紹 (2019)「Ⅲ-6 生活保護制度・低所得者対策制度」(共著)金子恵美 編集代表『要保護児童対策調整期間専門職研修テキスト (基礎自治体職員向け)』, pp. 35-37, 明石書店.</p>

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 立教大学ボランティアセンター長 2) 厚生労働省社会福祉住居施設及び生活保護受給者に対する日常生活支援の在り方に関する検討会構成員 3) 厚生労働省障害福祉サービス等報酬改定検討チームアドバイザー 4) 厚生労働省障害者総合支援法対象疾病検討会副会長 5) 介護福祉士国家試験委員会副委員長 6) さいたま市障害者政策委員会委員長 7) さいたま市地域密着型サービス運営委員会委員長 8) さいたま市社会福祉法人設立認可等審査委員会委員 9) 川越市社会福祉審議会委員 10) 新座市障がい者施策委員会委員長 11) 志木市地域自立支援協議会会長 12) 世田谷区保健福祉サービス向上委員会委員 13) 全国社会福祉協議会福祉サービスの質向上委員会委員（苦情解決委員会委員長） 14) 社会福祉法人全国社会福祉事業団協議会評議員
-----------------	--

氏名・専門領域	藤井 敦史 ●NPO・社会的企業・コミュニティ開発
著書	キム・ヒョンデ、ハ・ジョンナン、チャ・ヒョンソク（中野宣子訳・藤井敦史解説）『地域に根差してみんなの力で起業する ― 協同組合で実現する社会的連帯経済』彩流社、2018年6月発行（総頁数218）。
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Atsushi Fujii / “The comprehensive development process of Japanese WISEs, from a study of WISE infrastructure organizations” / Voluntary Sector and Volunteering Research Conference (NCVO, UK) / 2018年9月7日 (国際学会) . 2) 藤井敦史 / 『市民社会論』を通して考える市民社会研究の戦略 / 市民社会サミット (関西大) / 2018年12月1日 (招待報告) .
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本NPO学会常務理事（学術委員会） 2) 社会的企業研究会会長 3) NPO法人アジア太平洋資料センター（PARC）理事 4) 生活クラブ生協神奈川理事

氏名・専門領域	松尾 哲矢 ●スポーツ社会学，スポーツプロモーション論
論文	松尾哲矢（2019）「2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定後の日本のスポーツ状況に関する動向分析」，内藤久士，春日晃章，鈴木宏哉，結所哲宏，鄧鵬宇，松尾哲矢，青野博（2019）『平成30年度日本スポーツ協会スポーツ医・科学報告Ⅱ「国民の体力及び運動・生活習慣に関する日中共同研究 ― 第2報」』，pp.15-30，公益財団法人日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会。
資料・研究ノート等	松尾哲矢（2018）「学び続けることの大切さとレクリエーションのこれから」公益財団法人日本レクリエーション協会Recrew, No.682, pp.8-9.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 中山健二郎，松尾哲矢「高校野球に纏わる「物語」の変容に関する一考察 ― 朝日放送テレビ『熱闘甲子園』の分析を通して ―」日本体育学会第69回大会，徳島大学，平成30年8月。 2) 中村真博，松尾哲矢「障がい者スポーツにおける障がい者と健常者間の関係性の変容過程に関する研究 ― 車椅子ソフトボールチーム内の相互作用に着目して―」日本体育学会第69回大会，徳島大学，平成30年8月。 ※（一社）日本体育学会体育社会学専門領域学生研究奨励賞受賞

<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツ庁 平成30年度体力・スポーツに関する世論調査の質問項目検討委員会委員 2) スポーツ庁 スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト (SRIP) フォローアップ評価委員会 委員 3) 東京都スポーツ振興審議会 会長 4) (公財) 日本スポーツ協会指導者育成専門委員会 委員 5) (公財) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度検討プロジェクト 座長 6) (公財) 日本スポーツ協会指導者育成専門委員会 スポーツ指導者育成事業推進プラン戦略会議 座長 7) (公財) 日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会 委員 8) (公財) 日本スポーツ協会国際専門委員会 委員 9) (公財) 日本レクリエーション協会 理事 10) (公財) 日本レクリエーション協会公認指導者資格認定委員会 委員 11) (一社) 日本体育学会 代議員 12) (一社) 日本体育学会 体育社会学専門領域 事務局長 13) 日本スポーツ社会学会 理事長 14) 日本レジャーレクリエーション学会 理事 15) 日本スポーツ産業学会 理事 16) 東京体育学会 理事 17) スポーツ庁受託事業 公益財団法人日本レクリエーション協会 スポーツ医・科学等を活用した健康増進プロジェクト (スポーツ・レクリエーション活動を通じた健康寿命延伸事業) 協力者会議 委員長
------------------------	--

<p>氏名・専門領域</p>	<p>三宅 雄大 ●社会福祉学, 貧困・低所得対策, 社会政策</p>
<p>資料・研究ノート等</p>	<p>三宅雄大 (2018) 「書評 丸山里美編『貧困問題の新天地』—— もやいの相談活動の軌跡」 貧困研究会編『貧困研究』20, 明石書店, pp.106-109.</p>
<p>学会発表</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 三宅雄大 (2018) 「生活保護利用世帯における大学等『就学機会』に関する研究」 貧困研究会・第29回定例研究会 (若手・院生報告会), 立教大学 (東京), 5月. 2) 三宅雄大 (2018) 「『生活保護制度』における高等学校等卒業後の『就職』——『保護の実施要領』の分析を通じて」 日本社会福祉学会・第66回秋季大会, 金城学院大学 (名古屋), 9月. 3) 三宅雄大 (2018) 「生活保護利用世帯における大学等『就学機会』に関する研究」 第50回・大原社会政策研究会, 法政大学 (東京), 9月.

<p>氏名・専門領域</p>	<p>安松 幹展 ●運動生理学, フットボールサイエンス</p>
<p>著書</p>	<p>安松幹展 (2019) 「第4章サッカーに必要な体力・コンディショニングの評価法」 財団法人日本サッカー協会スポーツ医学委員会編, 『コーチとプレーヤーのためのサッカー医学テキスト』, pp.31-44, 金原出版.</p>
<p>論文</p>	<p>大室龍大, 磯勇亮, 飛田晃典, 廣瀬周, 坂上賢一, 石崎聡之, 安松幹展 (2018), 女子トップレベルフットサル選手のゲームフィジカルパフォーマンスと体力特性の関連, トレーニング科学, Vol.30, No.2, pp.89-96.</p>
<p>資料・研究ノート等</p>	<p>安松幹展 (2019), サッカーの科学的トレーニング3サッカーのゲームフィジカルパフォーマンス分析, 2018高校サッカー年鑑, (公財) 全国高等学校体育連盟サッカー専門部編, pp.230-231, 講談社.</p>

<p>学会発表</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) Yasumatsu M., Tobita A., Nakamura D., Tanabe Y., Iwayama K., Ishibashi A., Nakamura M., Ishii Y., Takahashi H (2018), Effects of 3 matches in a week on football performance and dehydration level in hot environments, ECSS, July, Dublin/IRE. 2) Ohmuro T., Iso Y., Tobita A., Hirose S., Sakaue K., Ishizaki S., Yasumatsu M (2018). Game physical performance of Japanese top-level futsal players in different competition levels, ECSS, July, Dublin/IRE. 3) Yasumatsu M. (2018), Science and Football in Japan, International Conference on Science & Football 2018 -The 2nd Korea-Japan Joint Congress-, August, Seoul/Korea. 4) Ohmuro T., Iso Y., Tobita A., Hirose S., Sakaue K., Ishizaki S., Yasumatsu M (2018). Game physical performance between different playing positions in Japanese futsal players, International Conference on Science & Football 2018 -The 2nd Korea-Japan Joint Congress-, August, Seoul/Korea. 5) 大室龍大, 安松幹展 (2018), ブラインドサッカー日本代表選手のゲームフィジカルパフォーマンス, 第69回日本体育学会, 8月, 徳島. 6) 安松幹展, 飛田晃典, 中村大輔, 岩山海渡, 石橋彩, 中村真理子, 石井泰光, 高橋英幸 (2018), サッカーのゲームフィジカルパフォーマンスに及ぼす暑熱環境下での連戦の影響, 日本フットボール学会 16th Congress, 12月, 千葉. 7) 廣瀬周, 安松幹展, 大室龍大, 飛田晃典 (2018), 週2日のSmall-Side Game Training がサッカーのパフォーマンスに及ぼす影響, 日本フットボール学会 16th Congress, 12月, 千葉. 8) 村石光二, 杉本菜穂子, 宮城修, 安松幹展 (2018), 暑熱環境下におけるサッカー競技のハーフタイムクーリングに関する検討, 日本フットボール学会 16th Congress, 12月, 千葉. 9) 大室龍大, 磯勇亮, 廣瀬周, 坂上賢一, 石崎聡之, 安松幹展 (2018), 男子トップレベルフットサル選手のゲームフィジカルパフォーマンスと体力特性の関連, 日本フットボール学会 16th Congress, 12月, 千葉. 10) 中村大輔, 石橋彩, 中村真理子, 石井泰光, 岩山海渡, 高橋英幸, 安松幹展 (2018), 1週間に3試合の試合日程における高炭水化物食摂取と大腿部筋グリコーゲン量の回復動向, 日本フットボール学会 16th Congress, 12月, 千葉.
<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本体力医学会評議員 2) 日本フットボール学会会長 3) 日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会「スポーツ活動中の熱中症予防に関する研究」研究班員 4) 国立スポーツ科学センタースポーツ・医科学事業研究分担者 5) アジアサッカー連盟フィットネスコーチインストラクター 6) (公財) 日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー 7) (公財) 日本サッカー協会技術委員会指導者養成部会部員 8) (公財) 埼玉県サッカー協会科学研究委員会委員

氏名・専門領域	山口 綾乃 ●異文化コミュニケーション, 医療社会学, 公衆衛生学
論文	Jesus Montero-Marin, Willem Kuyken, Catherine Crane, Jenny Gu, Ruth Baer, Aida A Al-Awamleh, Satoshi Akutsu, Claudio Araya-Véliz, Nima Ghorbani, Zhuo J Chen, Min-Sun Kim, Michael Mantzios, Danilo N Rolim dos Santos, Luiz C Serramo López, Ahmed A Teleb Mahmmound, Paul J Watson, Ayano Yamaguchi, Eunjo Yang, & Javier Garcia-Campayo. (2018) . Self-Compassion and Cultural Values: A Cross-Cultural Study of Self-Compassion Using a Multitrait-Multimethod (MTMM) Analytical Procedure, <i>Frontier Psychology</i> , 9, December 1-15. 英国オクスフォード大学との共同研究を行いました。
学会発表	Yamaguchi, A. , Kim, M.S. , Oshio, A. , & Akutsu, S. (2018). Influence of Self-Esteem and Sympathy on the Relationship between Self-Construal and Claimed Chronic Medical Conditions. <i>National Communication Association in Salt Lake City, Utah, Japan-US Communication Association.</i>
学内・学外における社会的活動等	<p>(Research Awards and Contributions)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 独立行政法人日本学術振興会論文審査委員 2) National Communication Association (NCA) Paper Reviewer 論文審査委員 3) 国際共同研究：共著者、リーダー University of Hawaii at Manoa, Min-Sun Kim, Hitotsubashi University, Satoshi Akutsu, and Waseda University, Atsushi Oshio to use the national data sets (Midlife in the United States (MIDUS), Midlife in Japan (MIDJA)), which were produced by Carol D. Ryff of the University of Wisconsin-Madison, Shinobu Kitayam of the University of Michigan, Mayumi Karasawa of Tokyo Christian Woman's University, Hazel Markus of Stanford University, and Norito Kawakami of the University of Tokyo. Christopher Coe from the University of Wisconsin-Madison, US. 4) Received Professional Comments and Suggestions from Ichiro Kawachi at the Public Health, Harvard University, US. 5) Appointed Risk Management for Study Abroad Orientation, 07/2018, at the College of Community and Human Services at Rikkyo University, Japan Rikkyo University, Japan. 6) Appointed the professional consultants to provide professional advice and suggestions about the students about English communication such as TOEIC, TOEFL, IELTS, international internship and study abroad program on 04/2018 to 03/2019. <p>(Conference Members)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) International Communication Association (ICA) 2) National Communication Association (NCA) 3) 日本社会学会 4) Hawaii Sociological Association (HSA) 5) 日本保健医療社会学会 6) America Sociological Association (ASA) 7) Society for the Study of Social Problems (SSSP) 8) 日本コミュニケーション学会

学内・学外における社会的活動等	<p>(Research Collaborations)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Cross-Cultural Health and Well-Being: Research Project Partner and Research Collaborator (米国ハワイ大学, 米国スタンフォード大学, 一橋大学, 早稲田大学) 2) Midlife in the U.S. (MIDUS) and Midlife in Japan (MIDJA) Research Project Partner (米国ミシガン大学, 米国ウィスコンシン大学, 米国スタンフォード大学, 東京大学, 東京女子大学) 3) Global Health Innovation Policy Program (GHIPP) Partner (政策研究大学院大学) 4) Cross-Cultural Health and Well-Being and Environmental Studies (米国イーストウエストセンター) 5) Social Capital Research Project Partner (米国ハーバード大学など) Self-Compassion, Mindfulness, and Well-Being Research Project Partner (Oxford University 英国オクスフォード大学など)
-----------------	---

氏名・専門領域	結城 俊哉 ●ノーマライゼーション論, 障害者福祉論, 福祉文化論
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉 (2018) 「第12章 地域で生きる障害者」 吉田武男監修・手打明敏／上田孝典編著『社会教育・生涯学習』ミネルヴァ書房 2) 【翻訳書】 キーロン・スミス (白井陽一郎〈監訳〉結城俊哉〈訳者代表〉) (2018) 『ダウン症をめぐる政治～誰もが排除されない社会へ向けて』 明石書店
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉 (2019) 「戦争に抗う福祉文化の視点とは何か」に関する試論『コミュニティ福祉学部紀要』第21号(3月), pp.63-83. 立教大学. 2) 結城俊哉 (2018) 「『旧優生保護法』時代に行われていたことが問いかけるもの～戦後日本の隠された障害者差別と国家(自治体)の犯した罪～」『住民と自治: 12月号』(通巻668号), pp.34-36. 自治体問題研究社.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉 (2018) 「現場実践の<語りと学び>をつなぐもの」『響き合う街で: 85号(7月)』(通巻122号), pp.28-34. やどかり出版. 2) 結城俊哉 (2018) 【映画評/書評】『家族の絆とは何か、僕が考えてみたこと～映画「万引き家族」(監督/作: 是枝裕和)を観た後で』『まなびあい』第11号(10月), pp.237-240. 立教大学コミュニティ福祉学会. 3) 結城俊哉 (2018) 「誰もが排除されない社会をめざして～出生前診断: ダウン症・中絶率100%の背景にあるもの」『すべての人の社会: 11月号』(通巻No.461), pp.8-9. NPO法人日本障害者協議会. 4) 結城俊哉 (2018) 「対人援助者が持つ『弱さ』についての一考察」『コミュニティ福祉研究所紀要』第6号(11月), pp.51-65. 立教大学. 5) 結城俊哉 (2018) 【書評】: 土屋・岩永・井口・田宮著 (2018) 『被災経験の聞き取りから考える』生活書院 / 『図書新聞: 9月』.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉・阿比留久美・岡村ヒロ子・篠原拓也 (2018) 「戦争をめぐる文化と暮らしを問い直す」『日本福祉文化学会: 全国大会・自主シンポジウム』報告(桃山学院大学), 大阪10月. 2) 結城俊哉 (2019) 「第2回ちようふ福祉実践フォーラム: 視野を広げる風景(けしき)が変わる」シンポジウム・ファシリテーター(東京・調布市2月).

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本福祉文化学会理事 2) 東京都調布市福祉人材育成センター運営委員長 3) NPO法人日本障害者協議会(JD)編集委員 4) 茨城県守谷市福祉有償運送等運営協議会委員長 5) 社会福祉法人多摩棕櫚亭協会運営評議員 6) 練馬区障害者自立支援施設等して管理者選定小委員会委員 7) 法政大学 現代福祉学部大学院：非常勤講師(ソーシャルワーク特論) 8) 全学研究助成委員・実習委員・インターンシップキャリア支援委員・ジェンダーフォーラム委員・コミュニティ福祉学会「まなびあい」事務局委員 9) 立教大学(新座キャンパス)過半数代表 10) 日本福祉文化学会「福祉文化研究・調査プロジェクト」研究(理論研究部門)「戦争文化に抗する福祉文化思想の基盤研究」(2018年：研究代表)
-----------------	--

氏名・専門領域	湯澤 直美 ●児童福祉, ジェンダー学, 貧困研究
著書	松本伊智朗・湯澤直美編『シリーズ子どもの貧困1 生まれ、育つ基盤』明石書店、2019年3月。
論文	「社会福祉におけるセクシュアリティ統制の構図」首都大学東京人文科学研究科社会行動学専攻社会福祉学教室(博士学位請求論文), pp.1-313.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 湯澤直美(2018)「子育て後の母子世帯の母たち」『学術の動向』23(5), pp.14-17, 日本学術協力財団。 2) 毎日新聞記事：くらしの明日 私の社会保障論 連載(4月4日・5月9日・6月13日・7月18日・8月22日・9月26日)。 3) 厚生労働省平成30年度社会福祉推進事業『生活保護世帯の保護者・子どもの生活状況等の実態や支援のあり方等に関する調査研究事業 報告書』株式会社浜銀総合研究所。
学会発表	第24回日本子ども虐待防止学会 学術集会、大会企画シンポジウム「子どもにとってのSDGs(持続可能な開発目標)から見える道」指定発言(2018年12月)。
学内・学外における社会的活動等	<p>【社会的活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本学術会議連携会員 2) 日本学術会議「社会学委員会・社会福祉分科会」監事 3) 日本学術会議「社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関する多角的検討分科会」委員 4) 日本子ども家庭福祉学会・理事 5) 日本家族社会学会・学会賞審査委員会委員 6) 全国社会福祉協議会・母子生活支援施設協議会中央推薦協議委員 7) 埼玉県男女共同参画審議会・委員 8) 富山県青少年健全育成審議会・委員 9) 横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定推進会議・委員 10) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会子ども・若者総合支援事業運営委員会委員長 11) 吉川市子どもの貧困対策推進計画策定委員会・アドバイザー 12) 東京都社会福祉協議会「自立生活スタート支援事業運営審査委員会」委員長 13) 社会福祉法人「ベテスタ奉仕女母の家」評議員 14) 一般社団法人「彩の国子ども・若者支援ネットワーク」理事 15) 非常利活動法人「学生支援ハウスようこそ」副理事長 16) 社会福祉法人「愛の家」評議員 17) 『貧困研究』(明石書店)編集委員会・委員 18) 特別区人事・厚生事務組合社会福祉事業団・評議員 19) 文部科学省「学びを通じたステップアップ支援促進事業」審査委員

学内・学外における 社会的活動等	<p>【講演・研修等】 高島町・立教大学交流連続講座「女性福祉のいま・これから—女性への暴力／若年女性への支援を考える」</p> <p>【研究活動】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 科学研究費助成事業基盤研究（B）「自治体における包括的子どもの貧困対策の形成・評価に関する研究」研究代表者2) 厚生労働省平成30年度社会福祉推進事業「生活保護世帯の保護者・子どもの生活状況等の実態や支援のあり方等に関する調査研究事業」委員
-----------------------------	---